

常盤公園で会える生きものたち♪

～常盤公園の木々～

園内では「ドロノキ」、「カツラ」、「ハルニレ」、「ミスナラ」、「エゾイタヤ」といった北海道を代表する木々がみられ、木陰は市民の「いこいの場」となっています。

<公園内でみられる木々>



⑥
ドロノキ



⑤
カツラ



⑤
ハルニレ



③
ミスナラ



③
エゾイタヤ

～常盤公園の草花～

園内では多くの草花をみることができます。春には「フクジュソウ」、「ムラサキケマン」、「ヒナギク」、「キバナノアマナ」、「チゴユリ」などの花がみられます。夏には「スイレン」、「ウツボグサ」、「イワニガナ」、「ヤマタニタテ」、「ツユクサ」などの花がみられ、公園を彩ります。

★★★：ふつうにみられる
★★：やや少ない
★：少ない

<春に公園内でみられる草花>



④
(4～5月) ★
フクジュソウ



③
(5～6月) ★
ムラサキケマン



⑥
(5～7月) ★★★
ヒナギク



⑤
(4～5月) ★★
キバナノアマナ



⑤
(5～6月) ★★
チゴユリ

<夏に公園内でみられる草花>



①
(7～8月) ★★★
スイレン



②
(6～8月) ★★
ウツボグサ



③
(5～7月) ★★
イワニガナ



④
(6～7月) ★
ヤマタニタテ



③
(7～8月) ★★★
ツユクサ

<探してみよう!その①>

園内では「シロツメクサ(クローバー)」を多くみかけます。この中に「四つ葉のクローバー」が混ざっていることがあります。四つ葉のクローバーは探し当てると幸運がもたらされると言われています。生えている場所は常盤館近くの土手です。ぜひ探して幸運をゲットしてください!

※写真の丸数字は見られる場所の番号
※写真の()内は見られる時期



③
(4～10月)
四つ葉のクローバー

<探してみよう!その②>

千鳥ヶ池の中島には「メタセコイア」という木が生えています。この木は「生きた化石」といわれ、化石とほとんど変わらない姿で現代にまで生育しています。

園内では大木に育ったメタセコイアを見ることができます。(木に名札が付いています)



メタセコイア (一年中)

【お問合せ先】
旭川市土木部公園みどり課
旭川市6条通10丁目 市役所第3庁舎
電話番号 0166-25-9705
Email kouenmidori@city.asahikawa.hokkaido.jp

～常盤公園の鳥たち～

春になると園内のあちこちでたくさんの鳥が子育てをしています。おどかさないように観察していたら、親鳥たちが忙しく巣にエサを運んでいたり、巣穴から顔を出すヒナを近くでみることが出来ます。また、夏になると巣立った子供をひきつれた家族があちこちで見られるかもしれません。



③④⑤⑥
(一年中) ★★

ムクドリ



③④⑤⑥
(4～10月) ★★

コムクドリ



③④⑤⑥
(一年中) ★★

シジュウカラ



③④⑤⑥
(一年中) ★★

アカゲラ



①②
(一年中) ★★

マガモ

★★★: ぶつうにみられる
★★: やや少ない
★: 少ない

<探してみよう!>

園内には街中でみることの少ない「イスカ」「コサメビタキ」「キビタキ」「オオルリ」など森林に住む鳥がおとずれています。また、夏になるとハヤブサの仲間の「チゴハヤブサ」や、千鳥ヶ池には、空飛ぶ宝石「カワセミ」もやって来ます。冬には、国の天然記念物の「オジロワシ」に出会えるかもしれません。



⑤
(11～5月) ★

イスカ



⑤
(5～9月) ★★

キビタキ



①②
(5～10月) ★★

カワセミ



⑤⑥
(5～9月) ★★

チゴハヤブサ



⑤
(5～10月)

コサメビタキ



⑤
(4～9月) ★★

オオルリ



①
(11～3月) ★★

オジロワシ

～常磐公園のほ乳類～

暖かくなると「ヤマコウモリ」がやって来ます。つばさを広げると40cmもあるコウモリです。日本全国に分布しますが、大きな木の「うろ」をめぐらとするため、街中ではなかなかみることが出来ない生きものです。でも、常磐公園では毎年6-9月に中央花だん付近で飛び回る姿をみることができます。



⑥
(6~9月)
うろから出てきたヤマコウモリ



飛び回るヤマコウモリ



<探してみよう!>

園内には「エゾアカネズミ」「エゾリス」なども住んでいます。彼らはとてもおくびょうなので、なかなか姿を見ることはできません。でも、木の下などをみると、穴のあいたクルミやボロボロになった松ぼっくりが落ちています。これは、彼らのご飯を食べたあとなので、もしかしたら、近くにいるかもしれません。



④
(一年中)
ネズミ類が食べたあと



④
(一年中)
エゾアカネズミが食べたあと

ネズミ類とエゾリスの
食べ方のちがいに注目!



③
(一年中)
エゾリスが食べたあと



④
(一年中)

たまにお散歩しています。



③④
(一年中)
キタキツネ



①②
(一年中)
ミンク

★★★: ふつうにみられる
★★ : やや少ない
★ : 少ない

～常磐公園の昆虫～

園内では「キアゲハ」「エゾシロチョウ」「エソスジグロシロチョウ」などが花だんの上を飛んでいたり、みつを吸っていたりします。「キアゲハの幼虫」や赤黒もようのカメムシ「ナガメ」などハテハテな虫もいます。



(5～9月)

★★

キアゲハ

キアゲハの幼虫



(5～9月)

★★

ナガメ



(6～7月)

★★

エゾシロチョウ



(4～9月)

★★

エソスジグロシロチョウ

はねのスジの入りが違うので、見比べてみよう！

★★★：ふつうにみられる

★★：やや少ない

★：少ない

<探してみよう！>

園内ではいろいろなトンボがみられます。トンボは自由に空を飛ぶ達人ですが、幼虫の間は水の中で生活します。成虫になるために、水の中からそばにある植物を使って出てくるので、水べと豊かな緑のある常磐公園はトンボにとって住みやすい環境なのかもしれません。大きくて青色のしましまようがきれいな「オオルリボシヤンマ」や羽の先が茶色い「ノシメトンボ」はみつけやすいです。あと、「アキアカネ」「マユタテアカネ」「ウスバキトンボ」などがみられます。同じような「赤トンボ」でもちょっと違うので、そお～っと近づいて、見比べてみてください。



(7～9月)

★★

オオルリボシヤンマ

鼻の穴みたいな黒い点があります。



(7～10月)

★★

ノシメトンボ



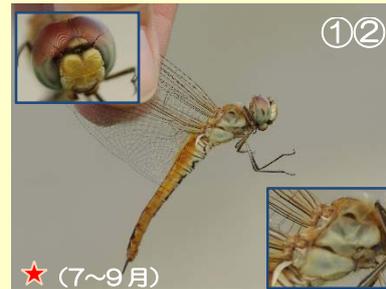
★★ (7～10月)

アキアカネ



★★ (7～10月)

マユタテアカネ



★ (7～9月)

ウスバキトンボ

おなかの様が違うので、見比べてみよう！

～公園の池には...～

園内の千鳥ヶ池や白鳥の池には、「モツゴ」、「コイ」、「ゲンゴロウフナ」、「キンギョ」、「キンフナ」、「ドジョウ」といった魚のなかまや、「スジエビ」や「マルタニシ」がくらしています。でも、スジエビとオオタニシ以外の魚たちはみんな公園の外から持ち込まれたもの、「**外来生物(がいらいせいぶつ)**」です。特に、モツゴは数が多く、池のあちこちで見られます。

★★★：ふつうにみられる

★★：やや少ない

★：少ない



～池のまわりには...～

池のまわりには、「ニホンアマガエル」、「ツチガエル」、「アスマヒキガエル」といったカエルのなかま、「クサガメ」、「ミシシippアカミミガメ」といったカメのなかまがくらしています。でも、ニホンアマガエル以外のカエルたち、カメたちはみんな公園の外から持ち込まれたもの、「**外来生物(がいらいせいぶつ)**」です。アスマヒキガエルは最近になって公園内でみられるようになりまし

★★★：ふつうにみられる

★★：やや少ない

★：少ない



<考えよう!>

外来生物(がいらいせいぶつ)とは...

もともと日本にいなかった生き物で、日本にやってきたもの(アメリカからつれてこられたミシシippアカミミガメなど)のことで、**人間によって持ち込まれたもの**のことをいいます。

外来生物に対して、昔からその地域に住んでいる生物のことを**在来生物**(ざいらいせいぶつ)といいます。

むずかしい話をすると、外来生物とは、正しくは「もともといなかった地域に、つれてこられたり、やってきた生き物」の事をいいます。たとえば、クサガメはもともと北海道にはいなかったの

で、本州などから北海道につれてこられた外来生物になります。外来生物のなかには、キンギョやクサガメ、ミシシippアカミミガメなど、ペットとしてかっていたのに、か

いきれなくなって誰かが逃がしてしまったものもいます。自然に逃がしてあげることは、その生き物にとっても、まわりの生き物にとっても、とても迷惑(めいわく)なことです。かいはじめた生き物は、最後までちゃんとかわいがってくださ

いね。(出典：環境省ホームページ <http://www.env.go.jp/nature/intro/Kids/index.html> から)

②で見られる代表種



コイ



オオトリボシヤンマ

①で見られる代表種



モツゴ



カワセミ



マガモ

④で見られる代表種



フクジュソウ

③で見られる代表種



エノキ



キアゲハ

⑤で見られる代表種



ハルニシ



アカゲラ

⑥で見られる代表種



ヒサギク



コマドリ

